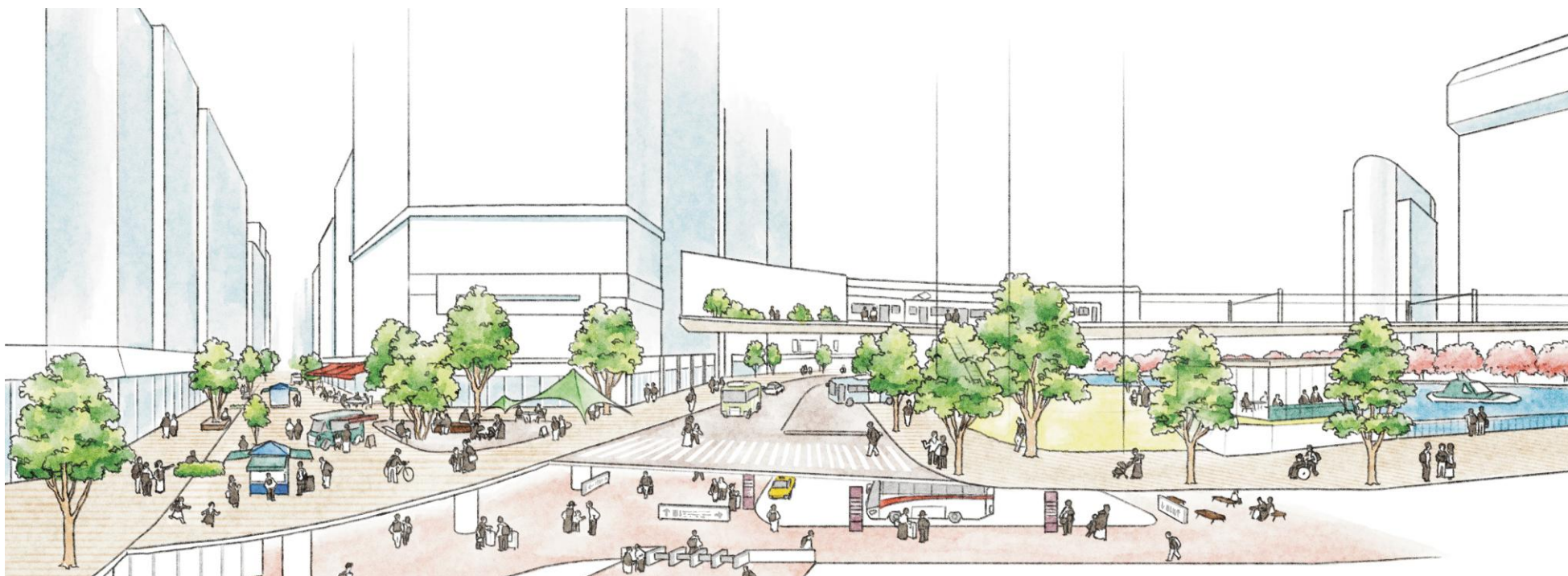
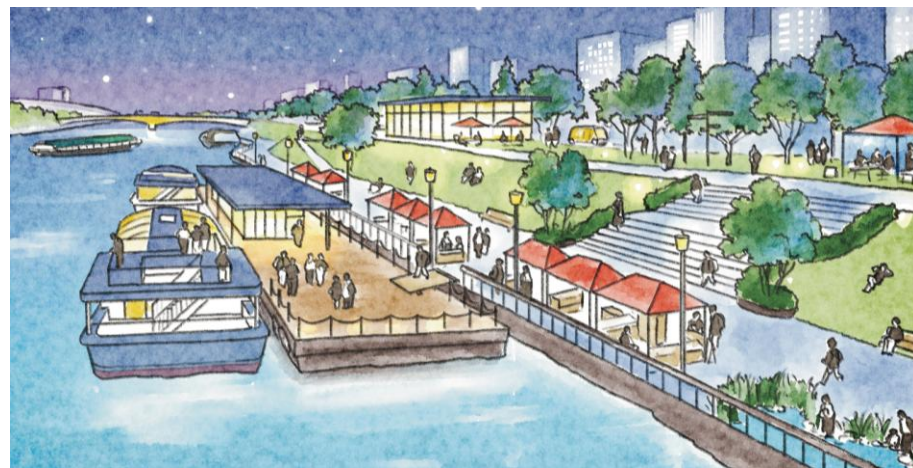




浅草駅・隅田川周辺のまちづくり

## 第2回 新たな回遊拠点の創出プログラムの 推進に向けた協議会

令和8年9月



- 1 第1回協議会（7月）の振り返り
- 2 協議会での検討の共有方法について
- 3 新たな回遊拠点の創出の検討

## 1

## 第1回協議会（7月）の振り返り

本協議会は、「新たな回遊拠点の創出プログラム」のありたい姿を実現するための基盤整備について、関係事業者が一体となって議論を重ね、方向性を定めることを目的としています。

|               |            |                                                                                                                   |
|---------------|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 協議会<br>スケジュール | 第1回（7月）    | <ul style="list-style-type: none"><li>・浅草未来図案（まちづくりビジョン）</li><li>・協議会の趣旨</li><li>・まちの状況</li><li>・今後の進め方</li></ul> |
|               | 第2回（9月）※今回 | <ul style="list-style-type: none"><li>・前回の振り返り</li><li>・検討の共有方法</li><li>・新たな回遊拠点の創出の検討</li></ul>                  |
|               | 第3回（12月予定） | <ul style="list-style-type: none"><li>・調整中</li></ul>                                                              |

# 1 第1回協議会（7月）の振り返り

## 協議会の主な意見・回答

### 【事務局について】

- 台東区及び東武鉄道株式会社が本協議会の事務局を務めることについて、全会で一致。

### 【協議会の進め方に関する意見】

- 基盤整備を進める最初の段階であるため、外からの視点や興味の促進が重要。

### 【協議会での検討の情報共有について】

- 地域の方に対しては、協議会資料を関係町会に配布し、町会の役員会等で周知いただく。
- 地域外の方へ向けには区のホームページでの資料公開を予定している。
- 雷門通りで実施予定の社会実験にて、パネル展示等で本協議会の検討を周知する予定。

### 【取組の進捗報告について】

- 浅草未来図案に位置づけたプログラム全体を包括する会合は、年度末に実施予定。

1 第1回協議会（7月）の振り返り

2 協議会での検討の共有方法について

3 新たな回遊拠点の創出の検討

## 協議会での検討の共有方法について

第1回協議会では、地域住民の方や来街者の方への情報共有のあり方について意見がありました。協議会での検討内容や取組の状況を広く共有し、多様な関わり方につなげていくため、以下のとおり、情報発信や対話の機会として考えられる手法を整理しました。

なお、以下の手法に限らず、今後、地域での関心や活動の広がりに応じて、勉強会等の実施の可能性についてもあわせて検討していきます。

| 手法            | 主な対象               | 役割             | 主な内容                   | 到達目標                |
|---------------|--------------------|----------------|------------------------|---------------------|
| ① 回覧板         | 地域住民の方             | 認知してもらう        | 検討状況の周知、イベント情報など       | まちづくりの取組を広く知ってもらう   |
| ② ホームページ      | 地域住民・事業者・来街者の方     | 理解を深めてもらう      | 会議資料、検討経過、イベント情報など     | 取組内容への理解を深めてもらう     |
| ③ 幅広い世代への情報発信 | 近隣の小学生等（若い世代）      | 世代を超えて情報を共有する  | 浅草のまちづくりをテーマにしたヒアリングなど | 若い世代を起点に地域全体へ情報を広げる |
| ④ オープンハウス     | 地域住民の方             | 対話を創出する        | 意見交換、将来像の議論、意見の収集など    | 多様な意見を収集し対話を促進する    |
| ⑤ パネル展示       | 地域住民・観光客・イベント参加者の方 | 来街者の関心をうながす    | 検討状況、住民意見の発信など         | 来街者の関心を高め機運を醸成する    |
| ⑥ シンポジウム      | 地域住民・事業者・来街者の方     | 将来像への理解と共感を広げる | 講演、パネルディスカッションなど       | 将来像への理解と共感を広げる      |

## ① 回覧板による情報提供の実施

回覧板の役割 = 「認知してもらう手段」

地域住民の方へ幅広く情報をお届けするため、協議会の検討状況や今後の取組予定について回覧板を活用して周知します。  
より多くの方にまちづくりの動きを知っていただくきっかけとなることを目指します。



回覧板のイメージ図



第1回協議会資料の内容

## 2

# 協議会での検討の共有方法について

## ② ホームページでの情報公開の実施

ホームページでの情報公開の役割 = 「理解を深めてもらう手段」

協議会で使用した資料や検討状況をホームページで公開し、いつでも内容を確認できるようにします。

回覧板による周知とあわせて、まちづくりに関心を持った方が継続的に情報に触れられる環境を整え、理解の促進や今後の意見交換・参加のきっかけづくりにつなげます。



ホームページで公開する情報等のイメージ図

## ③ 幅広い世代への情報発信の実施（案）

幅広い世代への情報発信の役割 ＝ 「世代を超えて情報を共有する手段」

児童・生徒をはじめとする子どもたちから、浅草の未来のまちづくりについて意見を伺う取り組みを実施します。

この取り組みを通じて、次世代を担う若い世代のまちづくりへの関心を育むとともに、学習成果を家庭や地域に共有することで、幅広い世代への情報発信につなげます。



【参考】台東区内のまちなみや景色に関心をもってもらうことを目的とした「小学3年生まちなみ絵画コンクール」

## ④ オープンハウスの実施（案）

オープンハウスの役割 = 「対話を創出する手段」

オープンハウスは、地域の方が気軽に立ち寄り、まちづくりに関する情報を知り、意見やアイデアを共有できる場として開催します。

協議会での検討内容の共有に加え、浅草の将来像について対話を重ねながら、多様な意見の収集を進めます。



オープンハウスの参加フローのイメージ図



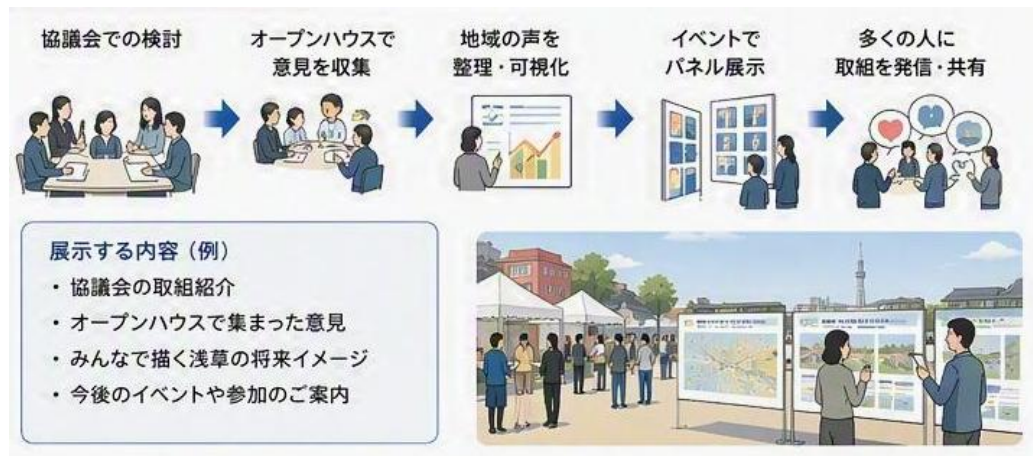
いただいた意見をもとにまちの将来像を示すオープンハウスのイメージ図（画像生成AIにより作成）

## ⑤ 他イベント時におけるパネル展示の実施

他イベント時におけるパネル展示の役割 = 「来街者の関心をうながす手段」

イベント時でのパネル展示では、主に来街者や観光客の方を対象に、浅草のまちづくりに触れてもらう機会として実施します。

協議会やオープンハウスの内容を来街者や観光客の方へ発信することで、浅草の未来像を地域全体で共有し、まちづくりの機運醸成を図ります。



他のイベント時におけるパネル展示のフロー図



社会実験時におけるパネル展のイメージ図  
(画像生成AIにより作成)

## ⑥ シンポジウムの実施（案）

シンポジウムの役割 ＝ 「将来像への理解と共感を広げる手段」

シンポジウムでは、学識経験者やまちづくりの専門家、地域関係者等を招き、協議会やオープンハウスで得られた意見や検討内容を広く共有します。

浅草の将来像や実現に向けた方向性について、専門的な知見や先進事例を交えながら発信し、地域全体で将来像への理解と共感を深めるとともに、今後のまちづくりへの関心を高める機会とします。



【参考】上野地区まちづくりビジョン シンポジウムの様子

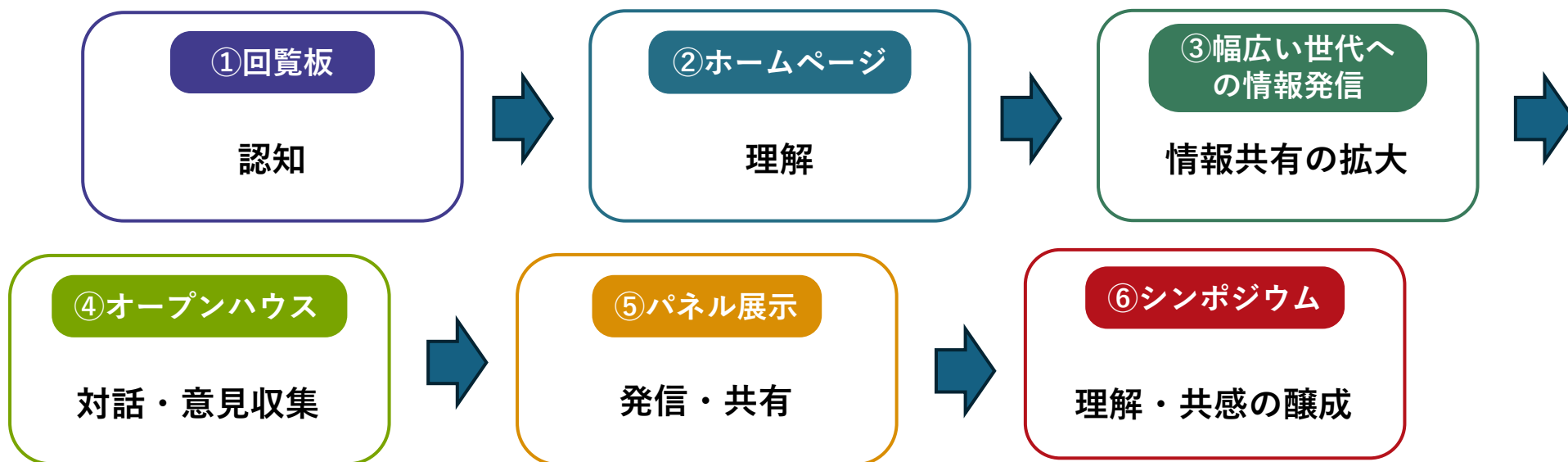
## 2

## 協議会での検討の共有方法について

## 情報共有・対話の全体イメージ（案）

回覧板やホームページによる情報発信に加え、学校等と連携した取組を通じて幅広い世代へ情報を共有します。

その上で、オープンハウスで地域住民の方から意見を伺い、その成果をパネル展示等で発信するとともに、シンポジウムを通じて将来像への理解と共感を広げることで、まちづくりに関する対話の充実を図ります。



地域での関心や活動の広がりに応じて、各手法を組み合わせながら、認知から理解、対話、共感へとつなげていきます。

- 1 第1回協議会（7月）の振り返り
- 2 協議会での検討の共有方法について
- 3 新たな回遊拠点の創出の検討

## 新たな回遊拠点の創出の検討

協議会の検討にあたっては、現在の浅草駅・隅田川周辺のまちの実情や社会情勢を踏まえながら、過去に行った検討も参考にしつつ、まちのありたい姿の実現を目指していきます。

## ■ 第1回協議会資料より抜粋 まちの現況

### ①. 滞留空間の創出

浅草駅前の滞留空間は、東京都内の主要駅に比べて小さい傾向となっています。



【参考：他駅の駅前空間】

- ・ 同区内のターミナル駅である上野駅 約13,380㎡ [浅草駅の約12.7倍]
- ・ 乗降客数が同程度の駅である錦糸町駅 約 5,180㎡ [浅草駅の約 4.9倍]
- ・ 外国人観光客が多い駅である原宿駅 約 1,840㎡ [浅草駅の約 1.8倍]



特に休日は、駅前の歩道空間に滞留する人や信号待ちをする人が溢れるほか、交差点における乱横断が目立ちます。

### ①. 滞留空間の創出

災害時において来街者の避難等の利用が想定される空間



- 地区周辺の大規模な公共空地は隅田公園一帯に限られており、地区内に滞留空間等を充実していくことが重要である

第4回 浅草地区まちづくりビジョン策定委員会

## ②. 水辺とまちの一体化

まちと水辺空間の一体感の不足

・2012年に隅田川親水テラスが完成したが、隅田公園は水辺側と園路側の高低差によって視覚的分断が生じ、公園と水辺の一体性が感じにくい状況である



多くの人が持つ水辺空間



水辺との一体感が感じにくい隅田公園

- ・江戸通りの沿道には建物が立ち並んでおり、まち・駅側から水辺へのつながりを感じにくい状況である



横断箇所が限られ、沿道に建物が立ち並ぶ江戸通り



まちの活動のしみ出しの少なさ

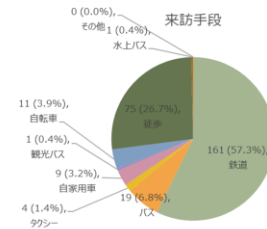
### ③. 交通結節機能の充実

来訪者の状況

・浅草地区への来訪者は5割以上が鉄道利用となっている。

- 地域からの意見として、利便性の高い乗換え動線や案内、まちや水辺と駅のつながりの創出が上がっている。

来訪者アンケート調査：来訪時の交通手段



(出典：令和7年度 雷門通り社会実験アンケート調査)

各部会・策定委員会における乗換えに対する主な意見

- |               |                                                                                                                                                                         |
|---------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| まちとの<br>つながり  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・駅から水辺までのつながりが弱い。</li> <li>・「駅」と「まち」と「水辺」で一体的に考えて、交通結節の取組みの方向性を示せるとうい</li> <li>・移動円滑化された経路を複数確保する必要がある。</li> </ul>               |
| サイン・<br>案内    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・サインの表示形式が統一されておらず、乗り換えと線路がわかりにくい。</li> </ul>                                                                                    |
| 乗換え階段<br>について | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各駅間のバリアフリーは計画的に進められてきたが、大きな荷物を階段で運ぶ来街者も多くみられる。来街者向けや、駅間の乗換えに伴い、利便性の高いバリアフリー動線の整備が必要。</li> <li>・地上の乗り換え動線は日常的に混雑している。</li> </ul> |

第4回 浅草地区まちづくりビジョン基盤整備部会（一部、データ更新）

# 3

## 新たな回遊拠点の創出の検討

### ■ まちのありたい姿

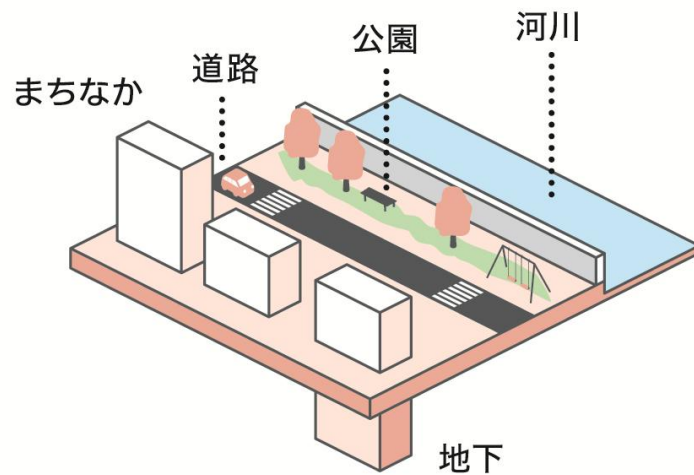
滞留空間の創出・交通結節機能の充実・拡充を行い、これとともに浅草駅や地下空間を更新した「浅草の新たな回遊拠点」として発展させます。

- 鉄道・バス・水上バスなどの公共交通の利用がしやすく、利便性が高い交通環境を確保します。
- 隅田川周辺では、水辺とまちが一体的につながった空間づくりを推進します。
- 観光や平常時の憩いだけでなく、災害時の避難にも対応できる空間を確保します。

# 3

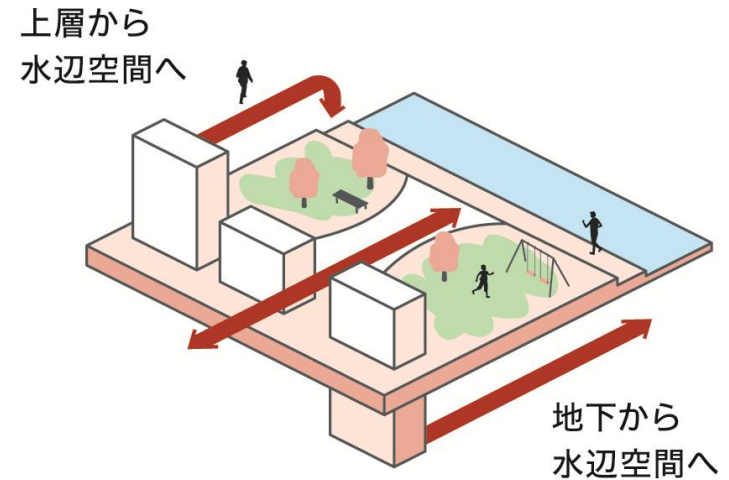
## 新たな回遊拠点の創出の検討

### ■現状からありたい姿への概念図



#### ■現状

堤防や道路等によりまちなかと水辺空間が分断されており、空間としてのつながりに欠ける状況です。



#### ■未来

まちづくりにあわせて、水辺に親しめる空間を創出するとともに、複層的にまちと水辺をつなげることで、まちなかと水辺空間のつながりを再生します。

# 3

## 新たな回遊拠点の創出の検討

今後、以下のような観点からありたい姿の実現に向けた検討を進めていきます。特に、東武浅草駅の鉄軌道（線路）の配置は、交通環境や水辺とのつながり、空間構成に大きく影響することから、これを検討の起点として、効率的かつ効果的な検討を進めます。

▼浅草未来図案におけるありたい姿

利便性が高い交通環境

水辺とまちが一体的につながった空間づくり

平常時だけでなく災害時にも対応できる空間

▼東武浅草駅の鉄軌道（線路）の配置があたり姿に及ぼす影響

**動線的前提の決定：**多様な交通モードへの乗換動線（距離、縦動線の位置、歩行者のゆとり等）の構成に影響

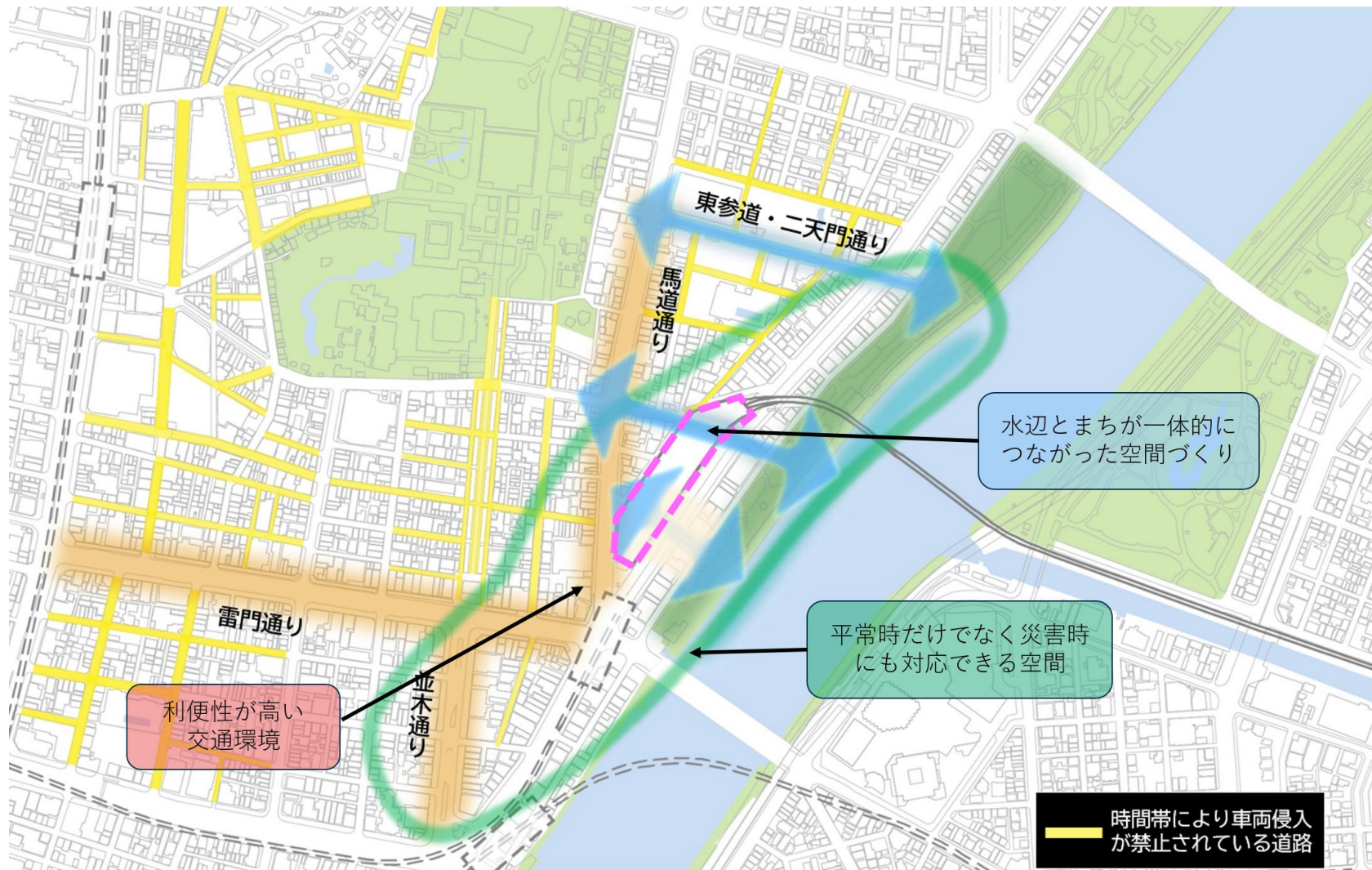
**水辺・基盤との整合の前提：**まちと水辺の動線、隅田川のスーパー堤防の整備計画等に影響

**空間確保の前提：**人や車両の動線計画、広場空間の連続性、配置、規模等に影響

# 3

## 新たな回遊拠点の創出の検討

### ■鉄軌道（線路）の配置を起点としたありたい姿の実現に向けた検討

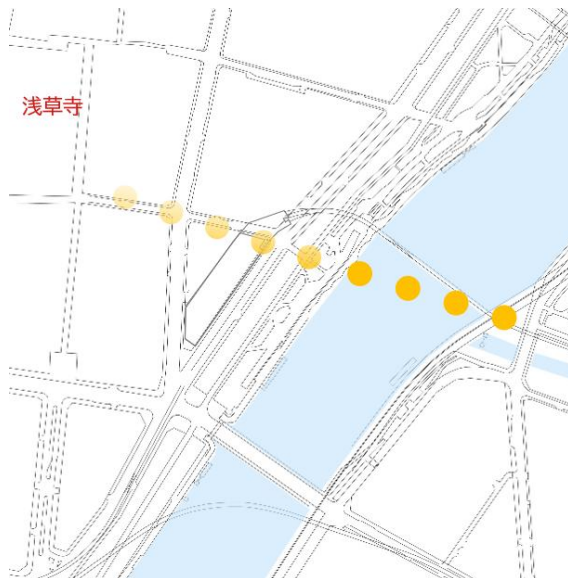


# 3

## 新たな回遊拠点の創出の検討

ありたい姿の実現に向けて、鉄軌道（線路）の配置について今後検討を進めてまいります。  
 検討にあたっては、現行と平成11年度に策定されたまちづくり構想案の検討内容をベースに進めてまいります。その上で、法令や物理的制約に加え、浅草を取り巻く環境が大きく変化したことを踏まえ、過去の検討事項を現状に適合させながら、魅力あるまちづくりを目指します。

① 平成11年度  
まちづくり構想案①



|      | 鉄軌道（線路）の方向 |
|------|------------|
| 河川の上 | 川に対して斜めに進入 |
| まちの中 | 東西方向に延伸    |

② 平成11年度  
まちづくり構想案②



|      | 鉄軌道（線路）の方向 |
|------|------------|
| 河川の上 | 川に対して直角に進入 |
| まちの中 | 東西方向に延伸    |

<現行>



|      | 鉄軌道（線路）の方向 |
|------|------------|
| 河川の上 | 川に対して直角に進入 |
| まちの中 | 南北方向に延伸    |